

## 令和4年度年報の発行に寄せて

院長 佐藤 耕一郎

令和4年度岩手県立磐井病院年報発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。今年度は2006年度に新築移転してから17年目にあたり、当院職員をはじめとします医師会や市、その他の関係者の皆さまのご協力により、コロナが5類に変更され、また市内の病院が形態を変える中、なんとか一般診療、救急医療を充実させ、院内感染を防ぎながら、病院を運営できていますことに心より御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスは5類に変更されましたが、コロナウイルスの性格が変わるわけもなく、このような状況下での当院のミッションは、両磐地区の救急、小児・周産期、がん診療と感染症の診療です。院内感染を防ぐために1病棟をすべてコロナ患者さん用に充てていた病床を一般に戻し、一般病床が満床にならないように満床警報を発令するシステムを構築し、救急医療がスムーズに行えるように病院運営を行っております。

このように救急、小児・周産期、がんなどの通常診療に加えて感染症の診療とすさまじい負荷が当院に加わった状況で、さらに2024年4月からの医師の働き方改革にも対応するために医師の働く時間を減少させねばならず、矛盾の中で当院がとった行動は医師数を増加させるという政策でした。しかし、これは原資をコロナ補助金としており、補助金がなくなる今後は、クリニカルパスを利用して医療の質と経営の質を上げるという方法で病院運営を行ってゆく次第です。

コロナは我々に院内感染の危険性や仕事量の増加を与えただけではなく、飲み会や各クラブ活動などのコミュニケーションの場を奪い去りました。それを解消すべく、個室や貸し切りの場合に限り、飲み会を許可しており、さらに、カラオケルームでは換気が良くなったことや向こう3年間クラスター発生がないという事実からカラオケルームでの2次会も推奨しております。さらに、このような紙上からでもその人なりを知ることができるわけで、この病院年報を新たなコミュニケーションの場の一つとしてご活用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

病院機能評価では、普段の実力でサーベイヤーに受け答えしていた姿から、当院の職員は、病院での重要な役割をになっているという自覚のもとに磐井病院を支えていると感じざるを得ませんでした。このような姿を見ると、当院は日々、以前からの目標である日本一の病院に一步ずつ近づいているのではないかと思います。去年より今年、今年より来年と、より成果の高い積み重ねの記録が今後の年報に記されることを祈念して巻頭の言葉とさせていただきます。